


## チャートを保護する要素を見る

-ケンドラに吉星が在住しているか、ウパチャヤに凶星が在住しているか-

As		Ke	JuR	Ve	Su JuR	Mo Ma Sa	
					Billy Graham 1918/11/7 15:30 Charlotte, NC D/9		Ke
			Sa	Ra			Me
Ma Mo	Me Ra	Ve Su				As	

ケンドラに在住する惑星は吉星であっても凶星であっても在住する惑星の力と及ぼす影響を強力にします。従って、凶星が在住すると凶星の力が強まるため、人生に大きなダメージを与えます。逆に吉星が在住すると人生において大きな恩恵や守護を与えます。従って、ケンドラには凶星が在住してはいけないと言われます。肉体、健康（1室）、住まい、心の安定（4室）、配偶者（7室）、仕事、社会的地位（10室）というように、ケンドラは人生における影響度の高い骨組みに相当する部分を表わします。もしケンドラに凶星が在住すると、対向のケンドラにアスペクトします。もし土星が在住すると、対向のハウスと10室目のハウスにアスペクトします。従って、ケンドラに在住しただけで、ケンドラへの凶星の悪影響はかなり大きなものになります。さらに凶星が2つとか、3つとか在住した場合の悪影響は相当なものになります。複数の凶星が同室する場合、悪影響を増幅しあって凶意を強めてしまうという問題も出てきます。

一方、ウパチャヤには凶星が在住した方が良いとされます。3、6、11室はウパチャヤハウスであり、努力によって改善していくハウスです。従って凶星が在住した方が困難に負けない強さを与えることになります。また3、6、11室はトリシャダヤハウスですが、これは欲望（食欲、性欲、睡眠欲）怒り（競争、攻撃）貪り（富、名誉、地位への執着、現状で満足しないさらに多くの金銭欲）を表わします。インドではこれらのトリシャダヤハウスで表わされる欲求を霊性修行の妨げになる悪と解釈します。

（欧米文化圏ではこれらの欲求を肯定的に評価するかもしれませんが、特にアメリカの場合、物質文明に偏っており、これらの欲求をむしろ肯定するかもしれません。米国の競争を促進する市場原理主義経済などは6室で表わされると解釈できます。欧米ではラーフを吉星と見るのもそうした文化的違いです。）

もし吉星がこれらのハウスに在住する場合、これらの欲求が安易に満たされ、そして欲求に歯止めが利かず、欲求に打ち勝つということはなく、精神的な観点からみると欲求に負けて墮落していきます。従って、欲求が満たされて何も努力しない結果、最終的に墮落し惨めになります。然し、もし凶星が在住すると欲求を破壊するので、欲求に負けないでそれらをコントロールして打ち勝つため、人生が徐々に改善してゆき、最終的には達成感、満足感などが生じます。

ビリーグラハムの場合、ケンドラに2つの吉星が在住しており、ウパチャヤに2つの惑星が在住してい

ます。特に3室のケートゥ、6室の土星など、努力忍耐をして困難に打ち勝ち(3室)、集中力を発揮して、敵を粉碎する(6室)配置です。土星は6室からさらに3室にアスペクトしており、低級な欲求を無視する忍耐力、精神力を有していることが分かります。唯一、10室に火星が在住しており、これはケンドラの凶星と言えますが、火星はラグナから9室、月から5室の支配星であり、5室支配の月と接合して、ラグナロードで最大吉星の木星からアスペクトを受けており、ヨーガカラカしか絡んでおらず、他の凶星の影響やドゥシュタナ、トリシャダハウスの影響は全く受けていません。

(注：このような場合、形成されているラージャヨーガはスーパーラージャヨーガとなります)

従って、火星はこの場合、凶星としてよりもむしろ、機能的吉星の力を最大限発揮できる状態にあります。火星は10室に在住していることから、司令官を表わしており、大衆を先導し導く強力なリーダーシップを発揮することが出来ると考えられます。実際、ピリーグラハムは大衆の前で演説し、聖書の教えを説くときに強く指示するような口調が多かったようです。火星が傷ついたり、凶星化している場合、これらの強いリーダーシップは強制力とか支配と感じられ、否定的な反応も少なからず呼び起こすことも考えられますが、彼の場合はおそらくそうした反応にはならなかったのではないかと思います。

これらのケンドラの吉星と、ウパチャヤの凶星というチャートを保護する要素については、K . N . R A O先生が「ラオ先生のやさしいインド占星術」の中で提唱しています。